

相互行為の外側としての「空間」

ゴフマン理論の CMC 分析への応用に向けて

神戸大学大学院 若狭優

1 目的

本報告の目的は電子メディア上での相互行為 (Computer Meditated Communication : CMC) を分析するうえで、アーヴィング・ゴフマンの相互行為論が新たな視座を提供できることを示すものである。既に対面的相互行為を基礎として生み出されたゴフマンの着想を CMC に応用する試みは成されている (遠藤 2000) (木村 2017) が、本発表では、これまでの研究が取り扱っていないゴフマンの「空間」に着目する。対面的相互行為を分析する上で、ゴフマンは空間と時間を重視し続けた社会学者であり (Giddens 1987=1998 : 166)、CMC という非空間のコミュニケーションを考えるためには、彼が空間に何を見出していたかを明らかにする必要がある。

2 方法

そこで、ゴフマンの主要著作 (『行為と演技』、『集まりの構造』、『出会い』、『アサイラム』、『フレーム分析』) から彼が空間に言及している部分を抽出し、分析をおこなう。ゴフマンは初期の『行為と演技』から後期の『フレーム分析』まで、自己呈示、儀礼、全制的施設、現実の組織化といった様々な議論を展開したが、その様々な箇所でも空間について言及しており、そこからゴフマンが空間についてどのように考えていたかを伺い知ることができる。

3 結論

分析の結果、ゴフマンが空間に見出していた要素は (1) 状況の定義を区分する隔壁、(2) 状況の定義を設定する舞台装置としての空間配置物、(3) 相互行為を維持/破壊する物質的基盤の 3 つに区分できると明らかになった。ゴフマンは相互行為における空間を場面が展開される単なる「容器」として付随的に捉えているわけではない。むしろ、相互行為における「状況の定義」が空間配置物によって維持されることで参加者の行為が規定されたり、あるいは相互行為の内容そのものには一切関わりのない天候や気温、騒音といった相互行為の「外側」にあるものが相互行為に干渉したりするといった、空間への多角的な視点を有している。

そのような視点にたつと、ゴフマンの理論を用いることで (1) 「『仮想的な』空間としての CMC がおこなわれる電子的な場面」と (2) 「CMC を維持/破壊する物質的基盤」から CMC を考えることができるようになる。非空間のコミュニケーションである CMC を仮想的な空間としてあえて理解することで、対面的相互行為の分析のなかで生み出されたゴフマンの豊富なタームを用いることができるようになる。また、CMC を維持するための物質的基盤として、パーソナル・コンピューターやスマートフォンといった電子デバイスの差異を CMC の分析のなかで取り扱うことができるようになる。以上の点において、ゴフマンの相互行為論、とりわけ空間に関する理解は CMC 分析の新たな視点を切り開くものとして有意義なものといえることができる。

文献

遠藤薫, 2000, 『電子社会論——電子的想像力のリアリティと社会変容』, 実教出版.

木村雅史, 2017, 「対面的相互行為と CMC の相互作用分析——E・ゴフマンの多層的現実論の視点から」『社会学研究』 99: 133-155.

Giddens, Anthony, *Social Theory and Modern Sociology*, Blackwell (1998, =藤田弘夫監訳『社会理論と現代社会学』, 青木書店).